

CWAJ/VVI Newsletter 2020 年春号

目次

1. ごあいさつ
2. CWAJ の活動紹介 : FSC
3. CWAJ 会長の紹介
4. 編集後記

CWAJ = College Women's Association of Japan

VVI = Volunteers for the Visually Impaired (視覚障がい者との交流の会)

FSC = Foreign Students Circle (外国人留学生との交流の会)

ECG = English Conversation Gathering (英会話の集い)

SVI = Scholarship for the Visually Impaired (視覚障害学生奨学金)

1. ごあいさつ

皆さんこんにちは。2019 年冬号で簡単に自己紹介をさせていただきましたが、今年の 1 月より、VVI Newsletter の編集を担当させて頂くことになりました、安原理恵(やすはらりえ)です。改めましてどうぞよろしくお願ひいたします。今年は年明けから春にかけて、新型コロナウイルスの影響で社会全体が落ち着かず、多くのイベントがキャンセル・延期となり、皆さんも少なからずお仕事・勉強・日常生活などに影響を受けられたのではないのでしょうか。そのような中でも、皆さんがお元気で過ごされていることを願っています。

さて、今回の Newsletter では 2 つの記事をお届けいたします。どちらにも、もしかすると皆さんの中に直接お会いお話されたことがある方がいらっしゃるかもしれない CWAJ メンバーが登場いたします。お楽しみ頂けたら嬉しいです。尚、本 Newsletter は下記の CWAJ ウェブサイトからもお読み頂けます。

<https://cwaj.org/jp/education/volunteers-for-visually-impaired/>

2. CWAJ の活動紹介 : FSC

皆さんが普段参加して下さっている CWAJ 活動は、VVI というグループが主催しているものになりますが、CWAJ には他にも多くのグループがあり、様々な活動を行っています。今後、それらのグループと活動を少しずつご紹介してゆきたいと思っています。2020 年春号では、その第 1 回として、FSC (Foreign Students Circle) についてご紹介いたします。今回は、今年の 1 月から FSC の責任者をしている、六鹿(ろくしか) ナナに話を聞きました。

た。以下は、とある休日に、おしゃれなカフェでインタビューした内容を、安原理恵が Q&A 形式にまとめたものです。彼女は、VVI の活動にも関わっていて、四谷の日本視覚障害者職能開発センターでの英語レッスンや、筑波大学附属視覚特別支援学校での英検モックインタビューにも、複数回参加したことがあるとのこと。もしかすると、ニュースレターを読んでも下さっている方の中にも、お話をされたことのある方がいらっしゃるかもしれませんね。

Q:FSC ではどのような活動を行っていますか？

A:FSC は、外国からの留学生が日本の文化や習慣を深く理解できるように、サポートすることを主な目的として活動しています。活動内容は大きく分けて2つ、年4回の日本文化に関連するイベントの開催と、CWAJ メンバーによるメンタリングプログラムです。1990年に活動を開始し、いままでに350人以上の留学生をサポートしてきました。

Q:日本文化に関連するイベントは、どんなことをやるのですか？

A:毎年行っているのは、歌舞伎鑑賞会と、CWAJ 現代版画展のツアーです。歌舞伎は、まず始めに歌舞伎役者さんから舞台装置や衣装についての説明を聞いてから、舞台鑑賞をします。いずれのプログラムも日本語または英語のイヤホンガイドを借りられるので、学生さんは大助かりです。普段なかなか聞けない説明をしてもらえるので、留学生たちはもちろんですが、CWAJ メンバーにとってもとても勉強になります。現代版画展ツアーは、担当のCWAJ ガイドから英語で解説を聞き、皆で版画展を見学します。その後ハンズ・オン・アートを体験したり、木版画を実際に作るプロセスを見たりして楽しみます。去年はその後、「現代の物を見た後は江戸時代の物」ということで、歌川国芳（うたがわくによし）の作品を見に、浮世絵の美術館に行きました。すぐに帰ってしまう人もいましたが（！）、中には説明を1つ1つ読んでじっくり鑑賞し、最後にミュージアムショップでショッピングを楽しんでいる人もいましたよ。そのほかには、お茶室でお茶の説明を聞いてお点前を頂いたり、お寺に行って座禅を組んだり。この春はお花見をしながら都内の歴史的な地域を散策する予定です。日本にいても、学生だとなかなか体験する機会が少ないだろうと思われることを中心に、企画をしています。

Q:メンタリングはどのようなものですか？

A:CWAJ メンバーと留学生がペアーになって（一人のメンバーが数名をまとめてお手伝いすることもあります）、メインはFSC プログラムに誘うこと。また一緒に出掛けたり、家に招いたり、ペアーごとに関わり方は様々です。年は離れているけれど、彼らが日本で少しでも楽しい生活ができるように、相談に乗ったりお手伝いしたりする友達と言ったところでしょうか。私の例でいうと、学生のお誕生日に食事に出かけたり、お正月我が家に招待したりという感じです（お正月彼女は帰国していたので、今年は実現できなかったのですが）。他のペアーでは、お正月に家に招待したところ、その学生さんは将来日本で起業した

いとかで、CWAJ メンバーのご主人に、日本で起業するコツを教えてもらったなんていうこともあるようですよ！それから、大学・大学院の卒業式に出席して、卒業をお祝いしてあげるといことも行っています。なかなか本国からご家族が来日してというのは難しいですからね。

Q:対象の留学生はどのような人たちですか？

A:外国人留学生で、日本の大学/大学院に通っている人であればどなたでも対象です。現在は約 20 名程度の学生さんを支援しています。私がメンターをしている方は、東南アジアからの留学生で、非常に日本語が堪能なのですが、それはとてもまれなケースで、日本語はほとんど話せないという人が大半です。私達が配布するパンフレットを見て連絡してくる人もいれば、すでに参加している先輩や友達から勧められて、参加する人もいます。学校を卒業すると、FSC の対象者ではなくなるのですが、そのような卒業生たちともまだ交流が続いていて、ある大学の研究室で働いている元 FSC の学生が、現役 FSC 学生を招待して、研究室を案内してくれるというようなこともあります。

Q:留学生のサポートをされているナナさんは、海外に住んでいたことはありますか？

A:子供のころに、北欧に住んでいたことがあります。住み始めた当初は、現地の言葉はもちろん、英語もほとんど話せなくて、そうするとなかなかお友達もできなくて、「あーほんと言葉ってだいじなんだな」と思ったことをよく覚えています。

Q:海外生活で、他に印象に残っていることはありますか？

A:時間に対する考え方で、1つおもしろいことがありました。たまに夜レストランで外食をすると、料理がなかなか出て来ないことが多かったのですが、ゆっくり待つということが苦手だった父はそれを嫌がっていたんです。そのことを近所の方に話したところ、「外食というのはゆっくり時間を過ごすためのものなんだ。レストランで料理を待っている時間も、ゆっくり過ごすためのものだし、言ってみれば料理と合わせて時間をお金で買ってるようなものなのに、その時間を楽しまないなんてもったいない！」という言葉が返ってきました。これは 20 世紀の話で、今では状況は変わっているかもしれませんが。とはいえ今でもヨーロッパに行くと、そんなに早く料理は出て来ないですよ。日本では料理が出てくるまでに時間がかかると、お店の評価は下がることが多いと聞きますが、待ち時間もサービスの一部というのは、ほんとにいろいろな考え方があるなあと思いました。

3. CWAJ 会長の紹介

CWAJ では、毎年選挙により役員を決定しています。今回は、2020 年 1 月より、CWAJ の

会長に就任した Jane Grimes (ジェーン グライムズ) を紹介いたします。ジェーンが執筆した英語の原文の後に、安原の和訳を記載しています。必要に応じてご参照下さい。

~~~~~

Hello and thank you for reading the VVI newsletter! My name is Jane Grimes and I am the president of The College Women's Association of Japan or CWAJ.

CWAJ has many activities and one of our most vital is our Volunteers for the Visually Impaired Committee.

I'd like to introduce myself and tell you about our organization.

I grew up in Alabama in the United States. I had a wonderful childhood but after university, I began to travel in Asia, including Japan and Europe. When I returned to the US, I met my husband. We moved together to New York City in 1996 where we lived for 15 years. During that time, I went to graduate school and got a degree in special needs education and we had girl/boy twins who were born in 2006.

Thanks to my husband's job as an editor at the Financial Times, we had the opportunity to move our family to London, England in 2011. We loved our interesting life in London for six years. We took the children to see many cities in Europe including Paris, Rome, Venice, Barcelona, Brussels and Athens among others.

The Financial Times was bought by the Nikkei News Agency which gave us the chance to move to Tokyo in 2017. The four of us love Tokyo and Japan. We have spent time getting to know this wonderful city and traveling around to experience as much of the country as possible. We have visited Sapporo in Hokkaido, Kanazawa, Nozawa Onsen, Shibu Onsen, Hiroshima and Miyajima, Kyoto, The Art Islands of Naoshima and Teshima, Hakone, Kamakura and the Islands of Shikoku where we cycled the Shimanami Kaido Trail.

Some of our favorite experiences have been attending the Grand Sumo Tournament, celebrating Setsubun, kayaking the Meguro River, hosting a hanami and going to onsen whenever we get the chance.

We all love Japanese food and enjoy cooking it at home as well as eating in restaurants. We are eager to try everything (except maybe natto) and find that food is a great way to

learn about new places. We all think Japan is DELICIOUS!

One of the best things that has happened to me since we moved to Japan is that I found CWAJ. I am so lucky to be a member of this dynamic group of women. I have made great friends with other members and CWAJ has helped me connect to Japan like nothing else has. I've had the opportunity to do so many interesting things thanks to CWAJ.

The first activity I participated in was to volunteer to teach English classes at the Japan Vocational Development Center for the Blind and Low Vision (JVDCB). Teaching at JVDCB for a year and a half was a true joy. I loved planning classes with other CWAJ members and listening to students speak English and laugh as they tried new words and phrases. It was wonderful to hear students be brave and improve upon their English skills.

I have also had the wonderful experience of being involved with the CWAJ Print Show. Some of you may be aware of this annual event hosted by CWAJ. It is an exhibition and sale of contemporary Japanese Print Art and is the largest of its kind in Japan, it receives international acclaim. One of the features of the Print Show is Hands-On Art. CWAJ selects 6 prints from the show each year to make into raised images. By doing so, individuals who are visually impaired have an opportunity to engage with visual art. I learned so much participating in the creation of these raised images for Hands-On Art. What great fun it was to work with other members and make those prints into multi-sensory images.

CWAJ is committed to working with individuals in the visually impaired community. We also work with students at Special Needs Education School for the Visually Impaired, University of Tsukuba to help prepare them to take the Eiken English proficiency exam. The first time I visited Tsukuba High School was to conduct mock interviews with CWAJ. Through a wonderful set of circumstances, I am now the Assistant Language Teacher at Tsukuba. I get to teach Junior High and High School Students English alongside their regular English teachers. It's a wonderful job and I feel so lucky when I go to work.

CWAJ has offered me even more opportunities to form meaningful relationships with Japan. I have been a part of the CWAJ Scholarship selection process.

CWAJ awards scholarships to women who are pursuing a graduate degree and to both women and men who are visually impaired and pursuing a university degree and a

graduate degree. It has been a joy to learn about the future young Japanese people hope for and to be part of awarding scholarships that help them realize that future.

Now, I find myself very lucky to have the great honor of being president of CWAJ. It is going to be a lot of fun to work with CWAJ members and the community, to continue forming friendships and learning about the beautiful culture of Japan. I will certainly continue my work with VVI and look forward to meeting many of you in person over the next year.

Most Sincerely,  
Jane Grimes

こんにちは。VVI ニュースレターを読んで下さってありがとうございます！私の名前はジェーン グライムズです。カレッジ・ウイメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン (CWAJ)の会長をしています。

CWAJ はたくさんの活動を行っていますが、中でももっとも活発な活動の1つが、視覚障がい者との交流の会です。

今回は、私自身のことを紹介すると共に、CWAJ についてお話したいと思います。

私はアメリカ合衆国のアラバマ州で育ちました。とても素晴らしい幼少期を過ごしましたが、大学を出た後、日本を含めたアジアやヨーロッパを旅して回りました。アメリカにもどった後、夫と出会いました。1996年にニューヨークシティに二人で移り住み、そこで15年過ごしました。ニューヨークに住んでいる間に、私は大学院で特別支援教育の修士号を取得しました。また2006年に男の子と女の子の双子が生まれました。

夫がフィナンシャル・タイムズで働いていたおかげで、2011年にイギリスのロンドンに家族皆で移り住む機会を得ました。私達は6年間のロンドンでの楽しい生活がとても好きでした。その間子どもたちを、パリ・ローマ・ベネチア・バルセロナ・ブリュッセル・アテネなど多くのヨーロッパの都市につれて行きました。

フィナンシャル・タイムズが日経に買収されたことで、2017年に東京に移り住むチャンスを得ました。私達4人は、東京と日本が大好きです。このすてきな都市を知るためにたく

さん時間をかけてきましたし、日本のできるだけ多くのことを経験したくていろいろな場所へ旅行しました。北海道の札幌、金沢、野沢温泉、渋温泉、広島と宮島、京都、アートの島直島（なおしま）と豊島（てしま）、箱根、鎌倉、そしてしまなみ海道をサイクリングした四国。

大相撲の観戦、節分、目黒川でのカヤッキング、お花見の会を企画すること、可能な時にいつでも温泉に行くことなどが家族皆のお気に入りです。

私達は日本食が大好きで、家で料理したり、外食したりして楽しんでいます。私達はいろいろな食べ物を試したいと思っています（たぶん納豆以外は）。そして、その土地の食べ物を食べることが、新しい場所について知るために、とてもよい方法だと思っています。私達は皆、日本って「とても楽しくて、美味しい！」と思っています！

日本に来てからあったもっともすばらしいことの一つは、私が **CWAJ** に出会ったことです。このようにダイナミックな女性グループの一員になれたことを、とても幸運に思っています。多くの親しい友達ができましたし、**CWAJ** は他の何よりも私に日本を教えてくれました。私は **CWAJ** のおかげでほんとうに多くの興味深いことを体験しています。

私が初めて参加したのは、ボランティアとして日本視覚障害者職能開発センター（**JVDCB**）で英語を教える活動でした。**JVDCB** で1年半レッスンを担当したことは、すばらしい喜びを与えてくれることでした。他の **CWAJ** メンバーと授業を計画すること、生徒さんたちが英語を話したり新しい単語やフレーズを試して笑ったりしているのを聞くことがとても好きでした。生徒さんたちが勇気を出して英語を上達させて行くのを聞いているのはとてもすばらしいことでした。

**CWAJ** のプリントショーに関わったこともとてもすてきな体験でした。皆さんの中にも、この **CWAJ** が毎年開催するイベントについて、ご存知の方がいらっしゃるのではないのでしょうか。これは、日本の現代版画の展示・販売会で、このような会としては国内最大規模のものであり、国際的にも高い評価を受けています。プリントショーの特徴の一つは、ハンズ・オン・アートです。**CWAJ** では展示作品の中から毎年6作品を選び、触って分かるように立体コピー図にしますので、視覚障害のある方にも版画を鑑賞して頂くことができます。この立体作品の作成に携わって、多くのことを学びました。またメンバーと一緒に、複数の感覚を使って楽しめるアートを作り上げることは、とても楽しいことでした。

**CWAJ** は、他にも視覚障害のある方々のコミュニティーに対する活動を行っています。具体的には、筑波大学附属視覚特別支援学校高等部の生徒の英検準備をお手伝いするとい

うものがあります。私が初めて学校を訪れたのは、模擬面接を行った時でした。

ご縁があって、現在私はその学校で英語のアシスタント ティーチャーをしています。中学と高校の生徒達に、学校の英語の先生と共に英語を教えています。これはすばらしいお仕事で、毎回仕事に行く度にとってもついているなあと感じています。

CWAJ は、他にも有意義な日本との関わり方を与えてくれました。私は CWAJ の奨学生選考に関わったのです。

CWAJ は大学院で学ぶ女子学生、大学、大学院で学ぶ男女の視覚障害学生に、奨学金を給付しています。日本の若い人たちの将来に対する希望を知ること、その希望の実現を手助けする奨学金給付に関わられたことは、喜ばしいことでした。

そして今、CWAJ の会長であることを、とても名誉であると同時に幸運なことと感じています。

これからも、CWAJ メンバーとして、あるいはコミュニティーで仕事をしながら、交友を深め、日本の素晴らしい文化を学んでゆくことは、楽しいに違いありません。

私はこれからも VVI の活動を続けて行きます。今後皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

心を込めて

ジェーン グライムズ

~~~~~

ジェーンそして旦那さんとお二人の子どもたちは、日本での生活をとても楽しんでいるみたいですね。大相撲観戦や各地への旅行などいろいろ聞きたいことがあります。私が一番気になったのは、いったいおうちでどんな日本食を作っているのかなということでしたので、質問してみました。そうしたら・・・

~~~~~

We cook:

ramen which we make from scratch (I make ramen from pork bones. I do use Dashi powder to give it umami.)

tonkatsu

okonomiyaki



mabo tofu

grilled buri with miso

white-miso- marinated, grilled buri

yaki-soba

Japanese hamburg (we often make this with ground chicken instead of ground beef)

tsukune

We love to roll up our own sushi at home too.

We probably make even more than that but these are the things we make regularly.

私達を作るのは：

一から作るラーメン（スープを豚の骨を使って作ります。旨味を出すために粉末だしも入れます）

豚カツ

お好み焼き

麻婆豆腐

鰯の味噌焼き

鰯の西京焼き

焼きそば

日本風ハンバーグ（たいてい牛ひき肉ではなく鶏ひき肉を使って作ります）

つくね

手巻き寿司も大好きです。

たぶんもっといろいろ作っていますが、こういった物をよく作っています。

~~~~~

豚骨からラーメン！アメリカに帰国後、いつでも「日本食レストラン “グライムズ”」が開けそうですね！

4. 編集後記

春号を最後までお読み下さり、ありがとうございました。きちんと形になるかしらと思いつつ作業を開始し、どうにか無事初回の Newsletter をお届けすることができ、ほっとしています。VVI Newsletter は、年3回の発行です。今後も VVI 活動の紹介・報告、Newsletter を読んで下さっている方の活動のご紹介、VVI 以外の CWAJ 活動の紹介など、様々な記事をお届けできればと思っています。「○○のような記事が読みたい」、「英語の記事を増やし

てほしい」など、何かリクエストがありましたらぜひ以下までご連絡下さい。Newsletter の感想も大歓迎です。

また、メールでのニュースレターの受け取りをご希望の方も、下記にご連絡下さい。

(連絡先)

VolunteersVI@cwaj.org

Newsletter Editor (編集担当) : 安原理恵

Distributor (発送担当) : 本村理子 (もとむらみちこ)